

## 令和2年度全国鉱山保安週間によせて

九州産業保安監督部長 伊藤 浩

各鉱山におかれましては、平素より鉱山保安行政に対し、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度も全国鉱山保安週間を迎えることとなりました。

この鉱山保安週間は、鉱山における自主保安活動を推進し、保安意識の高揚を図るとともに、広く国民の皆様には鉱山保安に関する認識と理解を深め、もって鉱山における危害及び鉱害の防止に資することを目的として、昭和25年度から毎年度制定しているものです。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から例年の制定時期ではなく、10月1日～7日を鉱山保安週間としております。この期間中、各事業所及び関係団体において、日常作業の一斉点検などの保安対策の徹底及び保安意識の向上促進など、様々な取組みが実施されることを期待しております。

九州産業保安監督部では鉱山保安週間に先立ち、保安標語の募集を行いました。18鉱山から172作品の応募をいただき、その中から特選1作品、入選4作品、計5点を選考いたしました。入賞されました保安標語作品についてはポスターとして印刷の上、各鉱山に配布いたしました。また、当部ホームページにおいても入賞された標語を掲載し広報しております。更に、鉱山保安週間中に当部の幹部職員が鉱山に伺い、保安標語入賞者の表彰、保安講話を行うなどの保安行事に取り組む予定としております。

全国の鉱山災害の発生は中長期的には下げ止まり傾向にあるものの、昨年、一昨年と重傷者数が引き続き高水準の状態となっています。今年度は第13次鉱業労働災害防止計画の3年目ですが、今年に入り8月までに死亡災害1件を含む19件の危害災害が発生しており、依然として災害撲滅にはいたっておりません。

九州管内では、昨年、火災4件を含む10件の災害が発生し、3名の方が罹災されました。今年、8月までに7月の九州北部豪雨による風水害1件を含む4件（罹災者2名）の災害が発生しています。

このような状況の中、各鉱山におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りつつ、自主保安活動を定着させ、さらに保安水準を向上させるためリスクマネジメントによる予防対策を徹底し、継続的な改善を行っていくことが重要になります。今年度、鉱山保安週間を迎えるにあたり、保安総点検、保安講習、保安パトロール、見学会などの行事を予定されていることと存じますが、上記の趣旨を踏まえ、発生頻度の高い災害に係る防止対策等の推進や地震、台風等自然災害への備えを再確認していただくなど、実りある鉱山保安週間となるよう積極的な取り組みをお願いいたします。

また、鉱山で働かれる皆様におかれましては、この鉱山保安週間を機に、改めて自らと職場全体そして家族のため、保安意識の向上に努めていただきますようお願いいたします。

鉱山保安週間を一つの契機として、皆様方全員が、一致団結して災害のない明るい職場づくりに邁進され、有意義な鉱山保安週間を展開されることを祈念しまして、私のメッセージといたします。ご安全に。